

松田小牧著

『防大女子 究極の男性組織に
飛び込んだ女性たち』を読んで

田村 浩仁 陸自84

防大の同期から紹介され読了した。単なる防大への女性入校を促す内容なら特段書評を記す必要もない、との気持ちで読んだが結論から言っても多くの人たちに読んでもらい、そして感じて欲しいと思う。

わが国は少子高齢化に伴う生産性のみならず全ての業種・職種における女性の活躍、そのための勤務環境・処遇の整備は喫緊の課題である。

そのような中、男性社会の典型とも言える自衛隊においても女性に対する職域の拡大は促進されているがそのような施策の中で女性がいかにして任務を遂行しているか？という現実を自衛隊という場を例として多くの国民が認識し、男性女性に関わらず全ての業種・職種において、いかに生産性世代を確保するか、という問題について考える機会を与えた良書と認識した。

これから読む方もいらっしやると

思うので内容の細部は省略するが、本書の最後は「防大・自衛隊や社会は、まだ彼女たちの強さを生かしきれいていない。環境が変わるためにはそれぞれの努力も相当必要となるが、諦めずに一步を踏み出し続けることこそが、彼女たちの未来を、防大を含む自衛隊を、ひいては国そのものをよりよくするものだ」と私に信じている」と結ばれている。

自衛隊という国家唯一の実力組織に女性を入れるという事については、様々な議論がなされてきたが、そのような議論の結論に関わらず、先にも述べた通りわが国の少子高齢化社会における女性の勤務環境・処遇の整備、そしてそれは男性の勤務環境・処遇の整備にもつながる現実の問題となつている。

本書を通じ国民的議論に発展する事を期待したい。



ワニブックス「PLUS」新書

定価990円